

Rosario Quarterly Information



広報 ロザリオ

第139号

社会福祉法人
ロザリオの聖母会
千葉県旭市野中4017
Tel (0479) 60-0600
ホームページアドレス
<http://www.rosario.jp>
Eメールアドレス
honbu@rosario.jp



目次

巻頭写真「佐原聖家族園」	1	ロザリオの聖母会女性活躍推進法行動計画	9
平成28年度事業計画	2	新任者紹介 / 今年度の入職員	10
施設・事業所長 新任のご挨拶	3	NHK歳末たすけあい	10
連載 私の新人時代⑦ 「人・・・」	4	キャラバン購入	11
憩いの場、Mado-ka (マドカ) 始まる!	6	寄附者御芳名	11
第24回ロザリオの聖母会合同研修会について	7	銚子商業高等学校吹奏楽部スプリングコンサート	11
ファミリーコンサート	7	フォトギャラリー	12
小原ケイ記念聖堂チャーチオルガン寄贈	8	行事予定	14
ロザリオの聖母会次世代育成支援行動計画	8	職員・ボランティア募集のお知らせ	14

平成28年度事業計画概要

理事長 桑島克子

1951(昭和26)年、制度化された社会福祉法人は主として措置事業を担っていたが、人口構造・地域社会の変容に伴い2000(平成12)年社会福祉基礎構造改革で措置から契約へと転換が図られ現在に至っていた。しかし、わが国の急速な人口構成の変容、経済格差など多様に対応を迫られた福祉行政はいわゆる内部留保問題に端を発した社会福祉法人制度の見直しが報告書として纏められた経緯については昨年の事業計画に記載してある通りである。

本年28年3月に改正法案が可決されると4月から一部施行され、29年度には全面的に改正案下で運営が行われる。従来の法人運営と大きく変り評議員会が理事会に代わる必置の最高決議機関となり理事会は業務執行に関する意思決定機関となる。

社会福祉制度が新たになると運営面での変化は財政面で顕著である。急激な人口構成の変化、膨張する社会保障費の為だけではない

が国の財政悪化が進み、社会的弱者に對しての対応が困難になってきた。そこへ税金を使い、法人税を免除されている社会福祉法人の内部留保問題が浮上し、余裕財産を公益のために使わないなら社会福祉法人格返上の論議となった。措置から契約に変わったにも拘らず法人経営が施設経営に留まっていた法人も多い現状に、本来の社会福祉法人の使命に立ち返るよう促されたといえる。振り返って、当法人の先人達は戦後の混乱の最中、私財を投げ出し寄附を募って事業を始めたことを思い起こせば

原点に帰る機会かもしれない。当時の病者や生活困窮者も現在の弱者と同じようにその責任は当事者には一片もなかったのである。

我が国の格差社会が更に進み夢や希望を持ってない人々が増える。また戦争に引き込まれる心配が増す。そのためにも、法人の財政、事業内容を地域の方、広く多くの人々に情報公開し理解と賛同を得て決められた枠を離れた公益性の

ある仕事をしたと思う。法人内施設でも時の国の施策によって収益に差が目立つ。昨年は単価が理由をつけて下げられ経営に危機感を抱いた事業所もあった。収益の差は主として国の方針による。収益が下がったらその事業は不要と言えるのは営利法人であり、社会福祉法人は同一法人内施設ばかりでなく、他法人にも協力することが求められている。

新年度は制度が変わるだけでなく法人本部の体制も大きく変わる。地域の問題を提起するのは現に地域と係わり、障害者支援を行っている施設・事業所の職員を通してである。昨今、業務は多岐に亘り事務文書等も増加している。簡素化出来るもの、逆に時間を掛けたほうが良いものなど整理し効率よく時間を使い共通認識を心がけた。また、同一施設内でも業務内容、問題点、目標など職員同士が理解し疑問についての話し合いが不足していることもある。法人内の施設同士も正確な情報を共有し相談や援助が出来るような関係であり続けたい。「自分が属している施設さえ良ければ其れでよし」とは新しい社会福祉法人制度では

相容れない考えである。

新年度採用の新社会人は僅かに4名であった。既卒の職員を含めて漸く10名である。社会福祉法人の財産である職員数の減では事業が成り立たない。少子化といつて責任を逃れる事も出来ない。福祉の仕事で得る真の報酬を職員一人ひとりに渡せるよう先輩・同輩の職員と利用者で努めたい。職場環境は特に大切であり実際には離職の原因であることも多い。そのためには入職の早い時期に、専門職と面談する事も有効な手立てであり、積極的に利用する流れを作りたい。

異動に関して後ろ向き考えが多いように見えるが同一施設で長期に勤務すると、他の施設・事業所への異動が不安になり、施設側も「せっかく業務を覚えたのに」と転出をしづる傾向がある。若い人は数年毎でいくつかの種別の施設・事業所を経験し、多くの上司に指導を受ける事で幅も広がりどのような障害にも対応出来るようになる。相談系の勤務には障害種別での問題を肌で分かる事は大切なことである。体験を通して自分の向きを知り、ある程度経験した

ら一つの場所で仕事を続けるのが良いのではないかと思う。

職場刷新に前向きな気風が吹くことを期待している。現在の施設・事業所長、係長以上の多くの職員は前理事長の下で貴重な経験をしたことが現在のエネルギーとなっている。

昨年大きな試練があった海上療養所は新体制が出来、先人の時代に戻り、所長と院長の協同で少しずつ光が射して来たように感じる。異なる職種が同じ目的で協力し、精神科医療制度の問題の中で、静かに奮闘している。

後援会の皆様、地域の方々、定期的に応援して下さる大勢の方々の願いを受けて新しい社会福祉法人制度を追い風と考えられるよう、この機会に初心に帰ることは何ごともにも大切という経験を職員一同ここに留める一年としたい。

29年度には創立65周年を迎え、記念誌発行に野口厚司理事を中心に準備を始めるので、沢山の職員、OBにご協力をお願いしたい。

(平成28年度事業計画前文より抜粋)

施設・事業所長 新任のご挨拶

聖マリア園

園長 菅谷一恵

春光うらかな季節を迎え、こころ穏やかに過ごされる方々も多くなり、出会いと別れの季節でもあります。私はこの4月より、小池秋男園長の定年退職に伴い、聖マリア園園長を命ぜられ就任致しました。

思い起こせば平成15年4月、聖マリア園へ看護師として入職し3年間を過ごしました。福祉施設での経験はそれが初めてであり、医療職として長らく勤務していた私にとっては、分からない事や不思議に思うこと、辛かったことなどもありましたが、あつという間の3年間で、利用者様との会話に勇気づけられ、一緒に楽しく過ごした日々を思い出します。その後は海上療養所へ異動となり、10年ぶりに再び聖マリア園へ戻ってまいりました。今回は、園長という重責を負うことになり、まだまだ

多くの意味で未熟者ですので、不安でいっぱいです。

障害者支援施設とは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）第5条の11により「障害者につき、施設入所支援を行うとともに、施設入所支援以外の施設障害福祉サービスを行う施設」と規定されている施設である。具体的には、障害者に対し、夜間から早朝にかけては「施設入所支援」を提供するとともに、昼間は「生活介護」などの「日中活動サービス」（昼間実施サービス）を行う、社会福祉施設である。と記述されています。

昨今、地域移行支援の情勢は大きな流れとなつていますが、「目の前」にいる利用者が必要とする支援。人が本来持っている権利（生命・生活・人生）を常に考え、サービスの充実に向けて自分も成長していかなければならないと改めて考える時間を持つてました。

平成3年の聖マリア園開設以

降、ご利用者様と職員が歩んできた道を、私もこの先、一緒に歩んでいけるように努力していきますので、今後とも、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

海匠ネットワーク

所長 英一馬

今年度より、前任の吉野所長の業務を引き継ぎました英（はなぶさ）と申します。

海匠ネットワークでは、千葉県より中核地域生活支援センター事業（以下、中核センター事業）・障害者グループホーム等支援事業、旭市より旭市基幹相談支援事業及び障害者虐待防止センター事業・旭市生活保護受給者就労支援事業・旭市被災要援護者等生活再建相談支援事業の5つの事業の委託を受けて活動しています。

当センターの根幹である中核センター事業は、「福祉と暮らしの総合相談」として平成16年10月から千葉県独自の事業として開始し、事業開始から今年で12年目を迎えたところですが、事業開始当初は未整備であった介護保険法による地域包括支援センターや障害者

総合支援法による基幹相談支援センター、生活困窮者自立支援法による自立相談支援事業等、この12年の間に多くの法定制度が整備されてきました。このような状況の中、中核センター事業を所管している県健康福祉指導課からは、今後、事業規模の見直しを行っていくとの明言を受けております。今まさに中核センター事業は、大きな過渡期をむかえています。

しかし、どんなに法定制度が整備されてきても、私たちに寄せられる地域のニーズは年々多様化、複雑化してきており、複合的な困り感を抱えた相談者が当センターを利用されています。当センターだけでも、前述5事業で年間1万件を超える相談対応を行っており、相談件数は年々増加しています。より多くの法定制度が整備された今だからこそ、制度からこぼれ落ちる方々を最後のセーフティネットとして受け止め、相談ニーズから地域の状況を把握し、必要な社会資源の創出に働きかける中核センターの機能が、今後より地域に必要なになると私たちは自負しています。

そのためにも、諸先輩方が積み

上げてきてくださった総合相談の実績とノウハウを各種法定制度と組み合わせながら維持強化していくとともに、地域から求められる当事業所の役割を改めて見直し、誠実に事業を遂行していきたいと考えております。

ソフィア

管理者 小野忠一

平成25年10月に、外来部門の業務を希望し、海上寮に就職しました。そこで、配属されたのが訪問看護でした。今まで、精神科の病棟勤務が長かったせいか、戸惑いもありましたが、スタッフに恵まれ楽しく勤務していました。

平成27年夏頃に、訪問看護ステーションの立ち上げの話が持ち上がりました。訪問看護をしながら準備に追われ、あれよあれよという間に同年10月に「訪問看護ステーション・ソフィア」が誕生しました。

慌ただしく業務に追われ、気がつけばもう半年が過ぎた、平成28年3月、管理者を命じられました。前管理者がしっかりとした基礎を築いて下さったとは言え、前任者の代りは到底務まりません。

これから自分が管理者として、どのような役割を果たすべきか考えた時「人を大切にする事」だと思いました。人とは、利用者、スタッフのみならず、他職種との良好な人間関係の構築です。現在、NHKの朝の連続ドラマ「あさが来た」のモデルになった、明治の女傑と言われ実業家の広岡浅子氏は「商いは人」を信念とし、人を大切にして、念願の日本で初めての女子大学を設立しました。

我が国では、精神障がい者を、在宅で安心して暮らせるような社会作りを目指しています。その動きの中で今後、訪問看護の果たす役割は多岐に渡り、多くを求められ、今までの様な形態では成り立っていかなくなることも予想できます。時代の変化の中で、自分一人では何もできませんが、スタッフと協力しながら、ニーズに対応していきたいと思えます。また、他者の言葉に耳を傾けながら、産声を上げたばかりの事業所ですが、大きく発展できればと思います。未熟ではございますが、どうぞ皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

連載 私の新人時代 ⑦

「人・・・」

みんなの家 所長 辻内理章

私は今まで法人内外の様々な職場（職種）を経験し、現在に至っていますが、平成11年頃に本会で活動していた『障害者スポーツ研究会』にボランティアとして参加し、知的障害を持つ方々（現在のみんなの家利用者）とバスケットボールやフライングディスクまたは、プールで一緒に遊ぶなどその時に初めて、知的障害を持つ方の『笑顔』と『真っ直ぐな気持ち』に触れ、とても印象に残ったこと、また故・細渕前理事長の人柄に惹かれ、ロザリオの聖母会で働く事のきっかけになりました。

全くの素人でしたので、最初は障害者の皆さんにどう接したら良いか、また、どう動けばよいかわからない事が多く、その当時は言われたことの動きしかとれなかったことが鮮明に残っています。平成12年6月聖家族園の非常勤職員としてスタートし、平成13年4月佐原聖家族園の開所と同時に常勤

職員となり、その後平成16年に中核地域生活支援センターさわやかネット（現・海匠ネットワーク）、平成19年には東総就業・生活支援センター（現・東総就業センター）、平成22年からは現在のみんなの家を兼務という形で歩んできました。

人からの影響はとて多く、入職当時は野球部の故・増田監督や故・中村キャプテンをはじめとする部員の存在は大きく、働くことだけではなくプライベートでも大変お世話になりました。また、佐原聖家族園の初代石井園長は『人』としての器の大きさや優しさなど、今まで出会った人の中で『尊敬』するひとりです。佐原聖家族園の立ち上げ職員の中でも、同じ気持ちの方は多いのではないかと思います。

現在も佐原聖家族園に飾ってあると思いますが、『私たちは家族です』を合言葉に利用者と職員がひとつになって、施設の基盤をつくるのに必死だったことを今でも覚えております。私の中で得た『働く喜び』の一つでもあり、今もその時出会った方々は大切な財産となっております。

相談系事業所に異動して、法人

外の方との接点が増えていく中で、施設にいる時には得ることの出来なかつた障害特性に見合った、また、一人ひとりに見合った支援の在り方や介入の仕方について、関わる障害者の皆さんから学ぶことが多くありました。特に精神障害の方への関わりや発達障害の方への関わりの難しさには、もっともっと勉強や経験をしていかなければいけないと感じました。

施設における支援の難しさがある一方、自分一人ではなく先輩や同僚または上司にタイムリーに相談できます。他方、相談系の現場では一人で対応しなければならぬ事が多く、先輩や上司にタイムリーな相談が出来ないことから、ケースワークやコーディネートを行うには個々の能力を常に高め、情報の収集においてはいつでもアンテナを張っていないと相談に来られる方へ、明確な助言・アドバイスができません。異動した当初は悩むことも多く、今の様に障害者の雇用が進んでいなかったので、企業に行っても門前払いが殆どで悔しい思いで戻ってきた事も多くありました。

そんな自分の様子を見て、『おい



辻内くん、今日飲みに行こうか』と声を掛けてくれる先輩がいました。この方も他界してしまいました。が、さわやかネットで一緒に働いていた故・河野さんでした。仕事でうまく行かず細瀬前理事長に

怒られた時や落ち込んでいた時に必ず声をかけてくださいました。一緒に飲んだビールはとても美味しかったことも今でも覚えていません。

東総就業・生活支援センターがスタートした平成19年度には、本会評議員でもある安西さんという『人』として人望も厚く、どんな人にも温かいそんな素晴らしい『人』と一緒に仕事ができました。安西さんはご高齢にも関わらず海匠・香取県域または、山武圏域や茨城県など、朝から晩まで飛び回り障害者の雇用を促進するために企業へ飛び込み企業開拓を行なってくださいました。まだまだ半人前の自分に対し、何も言わず先ずは話を聴いてくださり、見守ってくれました。今の東総就業センターや香取就業センターが海匠・香取圏域内の企業さんに信用していただけているのも、安西さんのおかげだと思っています。

今まで述べさせて頂いたように、自分の今までの成長の糧にはキーマンとなる『人』の存在が大きかった気がします。これからは沢山の方と出会い、沢山の方から学んでいきたいと思えます。今まで出会った方々に感謝致します。

憩いの場、Madooka(マドカ)始まる！

Madookaプロジェクト 管理者 井上創

地域の人がゆるやかに集まり、高齢者や障がい者あるいは子育ての支援など、街づくりに取り組む場「コミュニティ・カフェ」の取り組みが、全国で注目されています。そんな中、ロザリオの聖母会としましても2年ほど前より、あさひの

センターMadooka(まどか)として、地域福祉に役立てたいと考えております。地域の皆さまに気軽にご利用いただくことを願い、多目的スペースとして開放していきますので、ぜひ、遊びに来てください。

街なかにおいて、地域住民の皆様とともに新しい街づくりについて話し合い、考え、活動を始めるプロジェクトをしています。

今回の取り組みの拠点となる場所は、旭駅の近くにある、閉鎖されたしょうゆ工場跡を再利用しています。

「海匠ネットワーク」とともに「コミュニティ

平成28年3月7日「2ND.感謝のつどい」より



コミュニティセンター

「Madooka(まどか)」とは……

名称について

地域住民の方々にも参画していただき、名称を決定いたしました。人と人をつなぐ場としての活用を願い、「さまざまな窓(まど)を開いていく」ことをイメージした名称です。またkaには千年という意味もあります。これまでの旭の歴史も踏まえ、大事にしながら、さまざまな活動の拠点として、広くご利用いただければとの願いを込めています。

目的と機能

高齢者や若年世代が共生し、住民にとって住みやすい環境づくりに尽力したいと考えています。

①市街地における休憩スペースとしての機能

コミュニティカフェ・スペースとして常設開放しました。気持ちや心が休まる場所として、誰でも気軽に利用できる空間です。待ち合わせ場所として、または放課後の休憩場所として、自宅や学校、施設などとは違う「もうひとつの居場所」「ゆるやかな場所」として気軽にお立ち

寄り下さい。

②地域における相談支援機能

「海匠ネットワーク」とともに「生活支援コーディネート」を配置しました。「暮らしの相談室」として、また「カフェ型保健室」としてご利用ください。

③ボランティア育成サポートなど、生活支援におけるコーディネート機能

住民にとっての生きがいや居場所、仲間づくりの場となれば幸いです。それぞれのペースで住民の皆様が活躍できる場をつくりたいと思います。ぜひお集まりください。

④地域福祉としての情報ステーション機能

これからの地域福祉は、住民主体や住民同士の支え合いがキーワードです。私たちはその活動に貢献したいと考えています。情報交換、情報発信、交流、活動をサポートしたいと思います。

⑤地域住民の交流、生きがいづくり、活動連携機能

マチの「寄り合い処」として、また「地域交流スペース」として活用ください。会合や教室の場として、情報交換の場として、放課後の子どもさんの遊び



場や自習場所として：…。地域福祉にかかわる活動の場としてご活用いただけます。お気軽にお問い合わせください。

⑥地域における防災支援機能

子どもから高齢者、障がいのある方にも利用しやすいトイレを設置いたしました。防災支援機能として今後、この空間（ヒト・モノ）をご利用いただけるよう日頃から準備していきたいと思えます。

第24回ロザリオの聖母会合同研修会について

聖母療育園 看護師長 林田順子

3月5日(土)、第24回ロザリオ合同研修発表会が開催されました。昨年度まで土曜日以外の開催日でしたが、今年度からは通所施設職員も聞けるようにと土曜日となりました。参加人数は150、160名の参加でした。入所施設は土曜日出勤職員が少ない為、前年度と変わりはみられず、休日をおしての参加も多くみられませんでした。

発表のテーマは、各施設、事業所に関連した内容で、自施設しか知らない私は、他の施設事業所の支援内容がわかりました。今回も6席と、平成27年4月からオープンした聖母グループの発達支援センターの紹介でした。



センターは、就学前の障害を持った児童が通うふたば保育園、就学している児童には放課後デイサービスのふたばクラブ、そして療育コーディネーターと心理士が4市4町の障害を持った児童の家

族からの相談を受けるといった多機能事業所の紹介でした。

6席の発表で理事長奨励賞は、佐原聖家族園副主任の稲野正樹による「短期入所について」で、地域資源として入所施設の有り方として、地域サービスで在宅利用者の短期入所が円滑に利用でき、家族の負担を軽減させるための現状の課題と今後の展望の発表でした。

敢闘賞はロザリオ訪問介護事業所所長の石毛美津子による「ALS患者の意思決定支援への取り組み」で、2年間、利用者とヘルパーの意思の疎通を取る目的で透明文字盤を使用したコミュニケーション方法で、利用者の精神的負担の軽減し、関わりがスムーズになり、お互いを理解し、最後は笑顔がみられた発表でした。

来年度もロザリオの聖母会合同研修会全体が充実したものになりますよう、ご協力をお願い致します。

ファミリーコンサート

聖母療育園 療育科 飯島能子

平成28年2月21日(土)、公益財団法人千葉県文化振興財団様よりご招待いただき、利用児2名と付添職員で千葉県東総文化会館にて行われるファミリーコンサートに行きました。

このコンサートは子供から大人まで楽しめる歌とリトミックを取り入れたコンサートで、ディズニールのリトルマーメイドから始まり海の世界に入ったかのようなゆつたりと波にゆらされた感覚の中でフルートやピアノの音色が心地よく穏やかな気持ちになりました。

大きなホールでのコンサートは初めての体験でしたが、子供たちは大好きな手遊びや音楽にあわせての拍手など笑顔が絶えず、楽しい時を過ごすことができました。

また機

会があれば参加したいです。ご招待頂きありがとうございます。ありがとうございました。



新任者紹介

海上療養所



看護補助者

大原 亮太
3月より看護補助者として勤務されています。医療の仕事に就くのは初めてですが、積極的に取り組んでくれています。今後の活躍に期待します。



薬剤師

林 恭子
新卒採用から足かけ10数年。待ちに待った常勤復帰の彼女は皆に頼りにされる、ママさん薬剤師です。明るい笑顔で頑張っています。



支援員

安藤 浩範
20年以上、主に精神科領域で仕事をしてきました。ご縁があったみなさんと出会うことが出来ました。どうぞよろしくお願ひ致します。



支援員

水野 真奈美
今年2月からの勤務で、以前の経験を活かし、優しく気持ちのある支援で頑張っています。これからも、より一層の活躍を期待します。



事務員

渡邊 睦子
海匠ネットワークから聖家族作業所に異動してきました。穏やかな雰囲気・素敵な笑顔の方で、皆に安心感を与えてくれます。

聖マリア園



支援員

若梅 和美
2月1日から聖マリア園で支援員として勤務しています。持前の元気で明るく、利用者さんと接してくれています。今後の活躍に期待しています。宜しくお願ひします。

マリアデイサービス



支援員

郡司 昭子
デイサービスのムードメーカーで利用者さんの人気者です。今後の活躍に期待しています。

今年度の入職員



聖母療育園



支援員

内田 麻衣子
一日も早く仕事を覚え、みなさんと仲良くなれたらいいなあと思います。よろしくお願ひ致します。



支援員

渡邊 理緒
長所は責任感がある所です。まだ未熟ですが、たくさんの方々に信頼されるよう頑張っていきたいです。

聖家族園



支援員

伊藤 朱里
聖家族園で働かせていただくことになりました。何事にも一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。

聖家族作業所



支援員

渡邊 真弓
約十年間、高齢者介護の仕事に従事してきましたが、ご縁あつてこの度入職いたしました。頑張ります。

友の家



ソーシャルワーカー

酒巻 幸子
学びの姿勢や初心を忘れず、自分自身も人として成長していきたいと思ひます。

佐原聖家族園



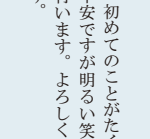
支援員

伊能 可純
佐原聖家族園に配属になりました。伊能可純です。明るく楽しい雰囲気をおかけして頑張ります。



支援員

大野 水紀
はじめまして。最近まで千葉市に住んでいました。これから地域のことを覚えます。よろしくお願ひします。



支援員

地下 弓華
初めてのことがたくさんあり、不安ですが明るい笑顔で支援を行います。よろしくお願ひします。

NHK歳末たすけあい

聖家族作業所 生活科

聖家族作業所ではこのたび、NHK歳末たすけあい助成事業様より寄付金をいただき、車椅子2台、セラピーマット10枚、吸入器1台、パルオキシメーター1個、マジックベルト2本を購入させて頂きました。これまでは備品の劣化により安全面への不安もありましたが、今回ご寄付頂いた品物は利用者の生活向上の為、大切に使用させて頂きます。温かい善意をお寄せ下さった方々に心よりお礼申し上げます。



キャラバン購入

【みんなの家】

みんなの家では、2月に新車キャラバンを購入しました。主に、パン販売や、各種イベント用として使います。



バックモニターやドライブレコーダー、カーナビも装備し利用者さん也喜欢んでいます。

安全運転を心がけ、大切に使用していきたいと思えます。

【聖家族作業所】

聖家族作業所では、今年の2月26日に新しくキャラバンを購入いたしました。主に送迎や日中活動、外出する際に使用致します。安全面を考慮し、バックモニターやドライブレコーダーも装備

しました。利用者の皆さんも新しいキャラバンが納車され、喜んでおられます。安全運転を心掛け、大切に使用していきたいと思えます。



寄付者御芳名

平成27年12月30日
平成28年3月4日

宮澤 均 様

A M E C コンサルタント株式会社 様

聖心会ワイラフジ 様

ヒゲタ醤油(株) 様

あさみ会長 鈴木たえ 様

(株)国際エアールジー

代表取締役社長 大山吉男 様

芳賀 信雄 様

白百合幼稚園 様

ウエスレンホーリキス教団 旭キリスト教会 様

田辺 弘子 様

旭 裕嗣 様

森 節子 様

森 裕美 様

銚子商業高等学校吹奏楽部スプリングコンサート

【H28.3.25】



春の訪れを感じるようになった3月25日、毎年利用者のみなさんが心待ちにしている千葉県立銚子商業高等学校吹奏楽部による「スプリングコンサート」が開催されました。今回の演奏では、中国獅子舞を披露して下さい、獅子の迫力に利用者の皆さんが感動していました。また、ふたば保育園、ふたばクラブの子どもたちとの合同発表では、とてもかわいらしいダンスが印象的でした。

演奏を聴きにきた皆さんが、楽しめるように思考を凝らした構成となっており、会場内が笑顔であふれ、素敵な時間を過ごすことができました。

顧問の先生をはじめ、吹奏楽部の皆さんには、心より感謝とお礼を申し上げます。



ロザリオ発達支援センター ふたばクラブ 主任 坂巻憲一

Photo Gallery

★みんなの家★

復興への願いを込めて、希望の鐘



製パン班・喫茶班
コラボパーカー販売!



★佐原聖家族園★

イルカとペンギンが可愛かったね!



成田ゆめ牧場に
行ってきました。



フライングディスク大会頑張ったよ!

★聖ヨセフつどいの家★

お楽しみ会・余興♪



クレープ完成!!

★聖母療育園★

音楽会♪



もっちゃん1年生!!



★聖マリア園★



香取神宮に
行けてよかったです。



佐原道の駅で
楽しんでいまーす。

★聖家族園★



しいたけ班
外出!



クリーン班念願の
浅草ツアー!!!

工作班集合!
in デイズニーランド



みんな大好き!
デイズニーランド!!
(農耕班)



★聖家族作業所★



スタミナ定食
いただきま〜す♪
(リサイクル班)

聖家族作業所
年度末班外出



一山いけすで美味しい
ご飯を食べました。
(チャレンジ夢班)



班外出行ってきました。
(園芸班)



香取神宮へ
(スポーツ班)



大集合!!
(チャレンジ班)

《職員募集のお知らせ》

ロザリオの聖母会では、「光のあたりにくい人々とともに歩む」という経営理念の下、多様な福祉サービスを総合的に提供できるよう、複合施設を経営するとともに、地域生活支援のため訪問、相談サービス事業等も実施し、利用者の豊かな地域生活を支援するよう努めています。職員の福利厚生、研修、育児介護休業制度等働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。

□平成29年4月新卒職員募集

職種	採用数	事業所	資格
支援員	10名	障害者支援施設	短大専門卒以上 普通運転免許

□既卒3年以内の正職員も上記と同条件で随時募集中！

□障害児者医療に携わる看護師も随時募集中！

◆応募 随時面接を行っていますので、本部総務課までご連絡ください。

0479-60-0600 (担当/採用係)

本誌のバックナンバーをロザリオウェブサイトに掲載しています。
(<http://www.rosario.jp>)

ロザリオの聖母会では、施設や利用者のために常時ボランティアの協力をお願いしています。お願いのできる方は是非、ご連絡ください。ご協力をお願いします。
問い合わせ
TEL 0479(60)0600
(担当 仲條)

ボランティア募集のお知らせ

行事予定

- 28. 4. 1 平成28年度辞令交付式、幹部職員懇談会
- 4 対策本部会議
- 5 法人運営会議、決算事務研修会
- 6 経営会議、総合安全対策委員会
- 7 職場説明会
- 8 クリーンデー
- 12 法人運営会議
- 13 経営会議
- 19 法人運営会議
- 20 施設・事業所長会議、経営会議、地域生活支援会議
- 26 法人運営会議
- 5. 6 クリーンデー
- 10 法人運営会議、研修会議
- 11 経営会議、総合安全対策委員会
- 17 法人運営会議
- 18 施設・事業所長会議、経営会議、地域生活支援会議
- 20 監事監査
- 24 法人運営会議
- 25 理事会、評議員会
- 6. 1 経営会議、総合安全対策委員会
- 4 安全運転講習会
- 7 法人運営会議
- 8 経営会議
- 10 クリーンデー
- 14 法人運営会議
- 15 施設・事業所長会議、経営会議、地域生活支援会議
- 18 後援会役員会、ロザリオ福祉まつり実行委員会
- 21 法人運営会議
- 7. 5 法人運営会議
- 6 経営会議、地元説明会、総合安全対策委員会
- 8 クリーンデー
- 12 法人運営会議、研修委員会
- 13 経営会議
- 19 法人運営会議
- 20 施設・事業所長会議、経営会議、地域生活支援会議
- 21 通所事業所連絡会
- 26 法人運営会議
- 27 理事会

医療 介護 施設 養育 訪問看護ステーション

就労継続支援B型事業所

ワークセンター

聖母療育園

聖母通園センター

児童発達支援センター

旭市子ども発達センター

障害者支援施設

聖マリア

聖家族

障がい者の就労促進事業所

みんなの家

生活介護事業所

聖家族作業所

ナザレの家あさひ

高齢者支援事業

ロザリオ高齢者支援センター

ロザリオ訪問介護事業所

通所介護・介護予防通所事業所

デイサービスセンター・ローザ

障害者支援施設

佐原聖家族園

生活介護・放課後等デイサービス

聖ヨセフつどいの家

共同生活援助事業所

ナザレの家かとり

地域生活支援センター

友の会

中核地域生活支援センター

海匠ネットワーク

障害者就業・生活支援センター

東総就業センター

香取市相談支援事業

香取障害者支援センター

障害者就業・生活支援センター

香取就業センター

障害者相談支援事業

みらい